

על-פלי מים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX 093(692)8592
所在地 〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州市 YMCA 内
HP <http://bible-school.name/> E-Mail hope_to_tomorrow.y@san.bbq.jp

失うことを好まず、叫んだ

理事長 山口 晶久

さて、読んでいただきました旧約聖書列王記下 6 章 1~7 節は、取るに足らない話と受けとめる方もあるかも知れません。しかし、み言葉に聞くといい、信仰をもって読みますと神の恵みと祝福をいただきます。

ここに、預言者エリシャという人が出てきます。BC（紀元前）9 世紀半ば、今から約 2800 年前に活躍したイスラエルの預言者です。ヨルダン溪谷アベルメホラのシャパテの子で畑を耕していた時に、預言者エリヤに見出された人です（王上 19：16 以下）。エリシャ、原語で「神は救いである」という意味で、イエス・キリストの模倣とされています。

ある日のことです。このエリシャを慕って弟子たち、その仲間（口語訳：ともがら）の数が増え 100 人（4：43）ほどになりました。そのために住まいが狭くなり拡張しなければならなくなったのです。「私たちの住む場所を造りましょう」（1 節）。自ら、木材を切り出し、住まいを拡張しようと願ったのです。この求めに「行きなさい。」と、エ

リシャは承諾したのでした。

「その一人が（口語訳）」（3 節）とあります。一人の弟子が「どうぞ、あなたもわたしたちと一緒に来て下さい。」と、誘ったので「わたしも行こう。」と、「エリシャも彼らと共にいった」。申し出に、弟子たちを愛するエリシャは、彼らの言葉に従ったのです。そして、「彼らはヨルダン川に来て、木を切り出した」（4 節）とあります。

私の好きな作家に城山三郎という人がいます。すでに平成 19 年 79 才で亡くなっていますが、日本の高度経済成長の坂道を、日本人が経験した新しい組織と人間のきしみを、そして、歴史の試練に立ち向かう指導者像を伝記小説に書き、サラリーマン層に共感をもって迎えられました。

そこで、城山さんは本当の指導者とは？自身の経験から 3 つの条件を上げました。

第 1 は、いろいろな情報を集めて先を読む「高感度」。次に、事に臨んでぐらぐらしない、動揺することのない「高安定」。第 3 は、「高淡泊」。すなわち、卑しくない品位を保つことであると。だが、それらの条件を備えていたとしても、すべてをだいなしにするものがある。それは「おごり」だと言うのです。彼は、「個人が頑張っても指導者が間違えば国は滅ぶ」と言いました。大

義を信じ海軍に志願し、そこで理不尽ないじめを経験し、そして敗戦。生活が一転し社会の冷たい仕打ちに遭います。組織の怖さ、人の醜さを思い知らされた人の含蓄ある言葉です。

一つの問題が起きます。「そのうちの、一人が梁にする木を切り倒しているとき、鉄の斧が水の中に落ちてしまいました」(5節)。口語訳聖書では、「斧の頭(原語は鉄)が」とあります。そこで、彼は「ああ、ご主人よ！あれは借り物なのです」と叫んだのです。梁にする木材を切り倒していたときに何かの拍子で斧の先、鉄の部分が外れヨルダン川に沈んでしまった。その斧は、知人からの大切な借りもの。失うことを好まず、叫んだのです。

ここに「失うことの悲劇」がもたらされたのです。斧の先、その頭がどんなに価値あるものか、忘れてはならない。それが無くなれば、家を建てることも不便であるし、仕事も遅い。失ってみて初めて、その大切さを知るのです。順調にいていた日々。しかし、人生には予期せぬ出来事に出合います。愛する人との別れ、失業など・・・。

一人の婦人が、ご主人との離婚の中で苦しみ悩む相談が新聞に載っていました。「できたら元の家にもどり、この子どもたちの成長を共に静かに見守りたい」という内容でした。人は、大なり小なり、失うことへの不安と恐れと悲しみを、そして、失望を経験するのです。「・・・わたしは悩み苦しんでいます。目は憂いによって衰え、魂も、からだもまた衰えました。いのちは悲しみより消えゆき、力は苦しみにによって尽き、骨は枯れ・・・わたしは死んだ者のように・・・破れた器のようになりました」(詩31篇9～12節)」と。まさに詩篇の記者のことばのように失うことの悲しみは、実に深いのです。

斧の先、斧の頭は水に落ち手に柄が残された。柄だけでは何の用もなさない。私たちは頭を失い柄だけで木を伐ろうと労する愚かさをしていないかと思います。額に汗し労するが実りがない日々。「木を伐りだす」ことに熱中し、「労力のみ、仕事のみ」になり、斧の刃の摩耗、自身の摩耗を見つめる時間もない。かつては力強く生き、み業を進めていたのに。

しかし、何かがくるってしまった。失う何かがあり「ああ主よ！」と人は叫ぶのです。そこで、多くの人は失ったものを回復したいと求めます。だけど、方法を知らない。どのようにしてよいのか分からず苦しむのです。まず、主、神のもとへ立ち帰ることです。聖書は「罪」ということを教えます。それは、「的はずれ」な生き方であると。ちょうど斧の頭を失って柄のみで木材を伐るようなことです。

ここに一本の枝が切り落とされ、投げ入れられることによって、「問題の回復なされた」のです。「どこに落ちたのか」。具体的に、その場所が示された。そこに枝が切り取られ投げ入れられたのです。「すると鉄の斧が浮き上がった」(6節)。

エリシャは、イエス・キリストの摸放といわれると言いました。エリシャの投げた木、実は私たちの罪のために死によみがえられたイエス・キリストが、十字架に付けられ、人々の罪を赦した十字架の木なのです。この木は、神の恵みと和解の象徴です。

ある説教者が、「斧が浮かぶことを真に信じるかと問われた。然り、罪の意識のために重く、そして失われても滅び去ってもおかしくない私の人生を、神はこの私を捕え神が浮かばせてくれたことは大きな奇跡である」と答えました。人生の途上で、誰でもが言いようのない苦しみを抱き、深みに落ちて浮き上がれそうにない現実にも幾度も

出合います。新約聖書入門を書いた作家三浦綾子さんは、「世には聖書に全く無関心で一生を終える人も少なくない。だがどんな人でも一生に一度や二度うめくような悲しみや苦しみにあうことがあるのではないかな。もし、そうした時に、聖書を知っていたならば、その苦しみ悲しみは単なる苦しみや悲しみに終わらず、別に意味を持つかも知れない」と言っています。

「拾い上げよ」と言われたので、「その人は手を伸ばし、それを取った」(7節)とあります。「手を伸ばし取る」、これは信仰を表します。聖書は「あなたの太陽は再び没せず。あなたの日はかけることがない。主がとこしえにあなたの光となり、あなたの悲しみの日が終わるからである」(イザヤ60:20)。手を伸ばして取るとは、神の恵みと神と人の和解の十字架を受け入れるということです。

(2013年1月11日礼拝奨励要約)

おのおの信仰の量りに応じて

校長 野村 幸生

「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量に応じて、慎み深い考え方をしなさい。」(ローマ12章3節)

香住丘キリスト福音教会の牧会の務めをさせていただいて、14年になりました。牧会させていただく中で、私自身の牧会の指針というべきみ言葉として、与えられて来たのが、このローマ12章3節です。

数年前に、ある方が書かれた倒産に関する論文を読む機会がありました。その論文には、「倒産する会社は自己資本比率が低く

借入金が多い、という特徴がある。会社経営では、社長が自分の器を越えて事をする時に失敗する可能性が高い。無理に規模の拡大を負う必要はない。拡大路線をとっても、自己資本がついて来なければ、どこかで破綻する事になる。私の株式会社経営の経験から自己資本比率は65%以上を維持すべきである。誰もが柳井正社長や渡邊美樹社長のようになれるものではない。彼は数千万人の一人の天才なのだ。天才のまねを凡人がしても怪我をするだけである。…」とありました。

このことから、私は、自己信仰比率ということばを作り、上記のローマ12章3節のことばに当てはめ、自分に応じた生活をする事の大切さを思いました。それぞれに与えられた信仰に応じて、本校で学べたことが、今後の生活の中で生かされるように、お祈りいたします。

(香住ヶ丘キリスト福音教会牧師)

仕えるために

教頭 廣川 和行

ご卒業おめでとうございます。主にあつて2年間の歩みが守られてきたことを主なる神様に感謝すると同時に、お一人おひとりの努力に敬意を表します。豊かな主の顧みがありますようにお祈りいたします。

本校の働きは、地域の教会に仕えることが使命です。皆様と一緒に学んだことは、すべて所属されている教会の働きが益々発展するためです。そのことを忘れないで、教会の教師や兄弟姉妹に仕えて、さらに主の祝福に預かって下さい。「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい」(エフェソの信徒への手紙4章3節)。

(日本キリスト兄弟団新下関教会牧師)

共の喜び泣く者として

教師 塩屋 弘

「女たちが、ナオミさんではありませんかと声をかけてくると」(ルツ記1章19節)

聖書をもっと深く理解したいとそう思われて、北九州信徒聖書学校で学ばれてこられたことでしょう。そして、ここで得られた知識が愛に知識となる時、本当に聖書学校で学ばれたということになるでしょう。

ルツ記には、ルツやナオミばかりでなく、他の町の女性たちも出てきます。ナオミが悲嘆の中で戻って来た時に、ナオミの名を呼んで迎える女性たち。喜ぶ者と共に喜び泣く者と共に泣くことのできる女性たちです。聖書学校を卒業なさる方々は、そのような愛の知識の実践者となられますように。(ウェスレアンホーリネス教団戸畑高峰教会牧師)

労苦はむだにならず

教師 原田 昌樹

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様は、お仕事を終え疲れられているにもかかわらず、あるいは他の用事を調整して、本当に良く学び通されました。学びつつも過ぎ行く日常の中で、何のために学んでいるのか分からなくなった時もあるかと思います。

しかし、主はすべてここで学んだ月日を覚えておられ、必ず必要な時にここでの学びや経験を用いてくださるでしょう。聖書にしている通りに・・・「いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」(1コリント15章58節)

(北九州クリスチャンの集い牧師)

十字架のキリストにこだわって

教師 上島 信弥

ご卒業おめでとうございます。皆様のこれまでの学びの一つ一つが豊かな実りとなっていますことを信じて、祝福をお祈りいたします。これまでも、そしてこれからも、皆さんという存在を通して神様は多くの素晴らしい感動を生み出していかれることでしょう。具体的には分からなくても、私たちが知るよりも前から必ず神様の御業はそこに働いています。私たちを決して捨てず、忘れず、その道に困難があつたとしても勝利の右の手で皆さんを神様は支えて下さいます。恐れることなく、驚くことなく、神様の御手共に勝利の道を歩んでゆかれますように。学びの時を御一緒できましたこと、まことに感謝いたします。

(野の花クリスチャンチャーチ牧師)

編集後記

いよいよ花開く春三月、卒業式のときを迎える。ある人が卒業式は「新たな志と誓いを立てる時である」と言った。一日の労働を終えて、夜、聖書に向き合い聞く、そして学ぶ。学生のお一人おひとりのその真摯なお姿と眼差しに、疲れて学校に臨んだ私自身もどんなに励ましと慰めを受けたかを思い起こす。授業前に共に守った礼拝は、内なる魂が御言葉の解き明かしで燃やされ、平凡であっても、日々の歩みがかけがえのない使命ある生涯であることを気付かされる時間であつたことを知らされる。学ばれた方々が巣立つ。遣わされた諸教会で福音宣教の一躍を担う証を立てていただきたいと願う。

今年度、主に在るご愛をもって、本校の働きのためにご加禱とご支援下さしましたことに深い感謝を申し上げます。